キャラクター名: 超絶絡繰機構人形「三郎」

プレイヤー名:

メインクラス	アコライト	**Lv.1:**		**レベル**	5
サポートクラス	シーフ	**Lv.1:**	シーフ	**性別**	男？
称号クラス				**年齢**	11
種族	エクスマキナ			**境遇**	渡来
出自（効果）	からくり技師			**目標**	憧憬

	筋力	**器用**	**敏捷**	**知力**	**感知**	**精神**	**幸運**
基本値	17	18	8	9	8	10	7
ボーナス	5	6	2	3	2	3	2
クラス修正	0	2	1	1	1	1	0
他修正							
能力値	5	8	3	4	3	4	2

HP	60
MP	57
フェイト	5

装備品		**射程**	**命中**	**攻撃**	**回避**	**物防**	**魔防**	**行動**	**移動**
右手	ファインウィップ	至近	-2	8	0	0	0	0	0
左手	ファインシールド		0	0	0	6	0	-1	0
頭部	ビレッタ					2			
胴部	クィルブイリ					8			-2
補助	ファインポイントアーマー				-1	5			
装身具	高位聖印								
能力値			8	0	3	0	4	6	10
スキル	AM、ｽﾀｲﾙ:ﾔｴｶﾞｷ、ﾏｼﾝｱｰﾏｰ		2			2	1		
その他									
総計(右)			8	8					
総計(左)			10	0	2	23	5	5	8
総計(両)									m
ダイス数			3 d	6 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	3			3	+ 2 d
トラップ解除	8			8	+ 2 d
危険感知	3			3	+ 2 d
エネミー識別	4			4	+ 2 d
アイテム鑑定	4			4	+ 2 d
魔術判定	4			4	+ d
呪歌判定	4			4	+ d
錬金術判定	8			8	+ d

所持品	
バックパック	
ベルトポーチ	
小道具入れ	
MPポーション	
火打ち金	
筆記用具	
ランタン	
ロープ	
アニマルメッセンジャー	
毒消し×3	

現在重量： 12		
最大重量： 24	所持金： 0	預金・借金：

スキル名	**SL**	**コスト**	**タイミング**	**射程**	**対象**	**判定**	**制限**	**メモ**
ランパート	★	-	pv	-	自身	-		
効果：	《カバーリング》を取得							
プロテクション	5	3	aDR	20m	単体	自動	1/MP	
効果：	被ダメージに-[SL]D							
アフェクション	★		aDR					
効果：								
ヘイスト	3		set					
効果：								
ワイドアタック	1		MA					
効果：								
ヒール	★		MA					
効果：								
クイックヒール	★		In					
効果：								
カバーリング	★		bDR					
効果：								
AM：鞭	★		pv					
効果：								
スタイル：ヤエガキ	4		pv					
効果：								
マシンリム	1		pv					
効果：								
ファーストエイド	1		pv					
効果：								
ハンズオブライトI	1		pv					
効果：								
マシンアーマー	1		pv					
効果：								
効果：								

顔には「サ」、胸から腹にかけて「ブロー」、
と達筆な白い字で書かれているだけの、上から下まで全身漆黒の人型機械人形、エクスマキナ。

東の果ての島国ダイワにいた、とある絡繰職人が、西の果てのアルディオン大陸から、人智を超えた機械の核、エクスマキナ・コアを仕入れ、それ持って十三台の絡繰人形を作ろうとした。
作ろうとしたのはオオド城の元で、タイクーンやその臣下の流派武家たちの為に働く黒子たち。

そして絡繰黒子人形が完成し、いざそれを起動させてみると、ひとつ大きな問題があった。
真面目に誠実に働く十二台の人形を他所に、隙あらば仕事から逃げ、怠ける人形が一台。
こればかりは使用した核次第だからどうしようもない。
だからと言ってそのままのわけにもいかず、技師職人は三台目を呼び出し説教をする。

すると困った事に、三台目はこっそりオオドの街を抜け出して、異国へ向かう船に乗り込み、自由を求めてダイワを後に旅立ってしまった。

その際に、自身で黒子の真っ黒なボディに、堂々と「サブロー」と我が名を書き記す。
ヤエガキ流の流派武家で黒子として働いていたサブローは、ヤエガキ流の武術を用いて、冒険者として気ままな生活を始める。

そして西へ西へと旅を続け、王都グランフェルデンを気に入り、そこに腰を落ち着ける。
自らギルドを立ち上げて、日々楽しく暮らしている。

もともと、人の役に立つために作られた黒子人形のせいか、コアの人格のせいかは知らないが、困っている人物を見るとついつい助けたり拾ったりしてしまう。
そのためサブローのギルドは大所帯。